

千早小学校児童収集のリサイクル靴をカンボジアに届ける

豊島区立千早小学校の児童達は“ものを大切に”との思いで中古靴のリサイクル（写真①）を思い立ち収集しましたが、なかなか引き取り手がなく困っていました。一方、総合学習の時間に行われた“区民ひろば千早”の“語り部部会”の紙芝居上演と併せて吉田が話したカンボジア農村小学校の事情を児童達が聴き及び、集めた靴をカンボジアに届けることが出来ないものかと“区民ひろば千早”に相談するに至りました。この児童達の思いを受けて



毎年カンボジアを訪問している吉田が10月下旬に中古靴総数は125足をお預かりしました。内訳は幼児用46足（12.2キロ）、小サイズ（20cm以下）35足（14.4キロ）、中サイズ（21cm-23cm）36足（17.7キロ）、大サイズ（24cm以上）8足（6キロ）で合計50.3キロ。この内、21足をリサイクル不適と判断し吉田が処分し、14足はカンボジアでは不適（冬物や重く嵩張るゴム長靴等）と判断して“区民ひろば千早”に11月初旬に返却しました。

カンボジアに持参した90足の内訳は、幼児用36足、小21足、中29足、大4足の合計35キロです。ツアー参加者（柳澤様、富沢様、福鹿様）ご夫婦3組のご好意を受けて、それぞれの自宅に約5キロずつ宅配し、各組夫婦のスーツケースに入れて頂き11月8日にプノンペン税関を経てシエム・リエブまで運びました。カンボジアの農村では至る所が泥んこですので運動靴は不適だと判断し、舗装が行き届いている大都市のシエム・リエブで配布することにしました。11月12日午前10時に時間が出来たので、円福友の会現地ディレクターのソファット氏に紹介されたスタン・テミイ私立小学校（かなり裕福な家庭の児童が通う小学校で全員が運動靴を履いておりました）を訪問し（写真②）、持参した90足を無事配布しました（写真③④）。児童達は様々なデザインの靴を見て大喜びで受け取っていました。

ちなみにシエム・リエブから東に60キロの国道沿いの町カンボン・クデイ近辺の農村にあるベン小学校を訪問した折に観察した児童の履物は写真⑤にあるように全てビニールのサンダルでした。予想した通り道路が舗装されていない大都市以外では今のところ運動靴は適さないようです。

（文責：吉田恒昭 2016年11月22日記）

